

めでいかすとり Médicastre

一般社団法人 鶴岡地区医師会 基本理念

鶴岡地区医師会は、地域住民の健康維持・増進と健やかな
長寿社会の実現のために地域に貢献するとともに、医の心を
忘れず知識と技術の向上をめざし、不断の研鑽に励みながら
日々前進する組織をめざします。



「湿原に映る出羽富士（ドローン映像）」

鶴岡地区医師会

令和 7 年 7 月号

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日時：令和7年6月26日(木) 19:00～

場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂 / オンライン開催



『多職種連携とAIで地域医療を強化する —呼吸器疾患診療と医療機関の運営—』

日本赤十字社医療センター
病院長補佐・呼吸器内科部長

出雲 雄大 先生

呼吸器疾患の診療は、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、事務など多職種が協力することで、患者さんのQOL（生活の質）を向上させることができます。特に、肺がんや間質性肺炎などの難病に対する診療が重要です。肺がん診療は、近年大きな進展を遂げています。特に、EGFR陽性肺がんの治療においては、新薬の登場が注目されています。例えば、ライブリバント＋ラズクルーズという新しい治療法が開発され、無増悪生存期間が2年近く延びることが期待されています。また、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬も、従来の化学療法とは異なるアプローチでがんを抑制する新しい治療法として注目されています。

間質性肺炎は難病であり、専門的な診断と治療が必要です。当院では2024年に間質性肺炎センターを新規に設立し、多職種が連携し医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどが協力し、患者さんの治療導入や日常生活の維持、生活の質向上を目指しており、北海道から沖縄まで日本全国から多くの患者さんに受診していただいております。

外来診療では、咳の患者さんが多く、咳の鑑別診断とその治療が非常に重要です。咳は、単なる風邪やアレルギーから、肺がんや結核などの重篤な疾患の初期症状として現れることがあります。したがって、咳の原因を正確に診断し、適切な治療を提供することが求められます。特に、慢性咳嗽の場合、喘息やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）などの可能性を考慮し、必要に応じてスパイロメトリーなどの検査を実施し、個別化された治療計画を立てることが重要です。

2020年以降、COVID-19の世界的な蔓延に伴

い、多くの医療機関が新型コロナウイルス感染症の診療に積極的に関与しました。特に、当院を含め呼吸器疾患の専門家は、重症患者さんに対する酸素療法や人工呼吸管理の指導を行い、多くの命を救うために尽力しました。また、ワクチン接種やPCR検査の実施にも貢献し、地域社会の安心を提供しました。COVID-19の経験を通じて、地域医療の重要性が再認識され、多職種が一体となって地域社会に貢献することが求められています。

地域医療の強化には、多職種連携が重要です。特に地方病院では、医療職員不足が課題となっていますが、柔軟な勤務形態や地域社会との連携を通じて、職場の魅力を高めることが求められています。また、AIを活用した患者モニタリングシステムや情報共有ツールを導入することで、地域医療の効率性と質を向上させることが可能です。AIを用いた医療画像解析により、肺がんや特発性肺線維症などの難病を高精度で診断することが可能になり、地域医療の包括的なサポートを提供することができます。

呼吸器疾患の診療は、多職種連携と最新の医療技術を活用することで、患者さんのQOLを向上させることができます。特に専門的なセンターの設立やAIの活用が重要であり、地域医療の強化を通じて患者さんの生活の質を向上させることが求められています。医師、看護師、事務職、薬剤師など多職種が一体となって、病院・診療所などの経営にも興味・関心を持ち地域医療を強化することが重要です。

これからの呼吸器診療はどうなるのか、また厳しい医療機関の経営状況などについて私見を述べ、今後の方向性を皆様とご議論できればと考えております。